集う楽しむ
見る学ぶ

柏崎マイコンクラブ博物館

KMC館

旧農作業小屋が生まれ変わった「KMC館」と植木さん。自宅敷地内の、母屋からわずかに離れた場所にある。入り口上の看板と、正面脇にある木彫りの熊は、マイコンクラブの副会長、木村修さん(62)=市内米山町=の作品だ（木村さんのチェーンソーアートを53ページの「ひと2011」で紹介しています）

パソコンが趣味の仲間でつくる柏崎マイコンクラブの会長・植木敏郎さん(61)が2010年、市内下田尻の自宅敷地内に「柏崎マイコンクラブ博物館」を完成させた。愛称は頭文字から「KMC（けむし）館」。古いパソコンなどを歴史の遺産として残していこうという施設で、クラブの会員たちが集う交流の場でもある。11年春からは館内を一般に公開する。パソコン好きの人には見応え十分だ。

農作業小屋が生まれ変わる

KMC館の前身は、植木さん宅の農作業小屋。兼業農家として、以前はトラクターやコメの乾燥機が置いてあったが、地元で農業法人が設立されて作業の共同化が始まり、農機具は要らなくなってしまった。「二束三文」で処分したという。

こうして役目を終えた小屋を、約600万円かけて全面的に改装した。ちょうど会社を定年退職する時期を迎え、退職金の一部を充てることで計画はスタート。09年10月に建物工事が始まり、暮れに出来上がった。10年に入ってからは内装や備品・展示品の整備に着手。マイコンクラブ会員たちの協力を得ながら少しずつ作業を進め、同年10月、名実ともにKMC館が形となった。

柏崎マイコンクラブ

柏崎マイコンクラブは1981年、植木さんが市内のミニコミ誌で呼び掛けて4人で創設した。パソコンが「マイコン」と呼ばれていたころだった。自分たちがパソコンを楽しむだけでなく、講習会やイベントも開催し、柏崎でのITの普及、地域情報化に少なからず貢献してきた。今は会員約20人（写真は82年の柏崎日報新年号で紹介した柏崎マイコンクラブのメンバー）

地震きっかけ 古い機器収集

植木さんがKMC館をつくろうと思ったきっかけは、中越、中越沖の2度の大地震だった。地震後、多くの家庭や事業所で、使われていないパソコンなどの電子機器が処分された。通常なら有料の処分が、地震直後は無料で回収してくれた措置も拍車をかけた。「パソコンがどんどん廃棄され、何か手を打たなければ古いパソコンがなくなってしまうのではないか。そんな焦りに似た気持ちを抱いた」と振り返る。「柏崎マイコンクラブを立ち上げた者として、長年の情熱をここで残さなければ」という使命感も生まれた。

実はそれ以前にも、市内事業所で不要になった旧型パソコン数台を引き取っており、下地はあった。古いパソコンを展示する「博物館」を建てようとの思いが募っていく。

たまたま農作業小屋が空くという事情が重なった。「そのことがなければ、家の2階を改造するつもりだったが、さすがに、この案は家族から反対されて……」。幸い農作業小屋は地震で少し傾いただけの被害で済んでいて、再生が可能。古いパソコンは、自分が持っていたもののほか、クラブの仲間に寄贈してもらうなどして収集した。それぞれ思い入れのある機器が〝第二の人生〟を歩み始めた。

KMC館1階の集会室。明るい室内。パソコンはもちろん、テーブル、いす、ホワイトボードなどの備品をそろえた

KMC館2階で柏崎マイコンクラブの会員たち。1970年代からの本格的なパソコンの歴史を物語る機器や書籍と、クラブの活動がドッキングした空間だ。天井には見事な原木の梁（はり）。もともとは民家を移築して農作業小屋に転用したとのことで、梁は民家時代からのもの

PCの歴史詰まった館内

KMC館は木造2階建て、延べ約80平方㍍。冷暖房、水道、トイレを完備。1階は集会室で、マイコンクラブの例会や学習会を開く。2階にはパソコン約20台と周辺機器が並び、コンピューター関係の本・雑誌、古いソフトがびっしり。まさに館内は30年以上に及ぶパソコンの歴史が詰まっている。展示パソコンは作動するよう点検もした。「動かそうとまでは思っていなかったのに、欲が出てきた」と植木さんは話す。

マイコンクラブは「団塊」とその前後の世代が多い。夢のある時代を生きてきたという会員たちが「これからも夢を持ち続けたい」と感じる場所、それがKMC館のもう一つの役割だ。会員が価値あると思うものならパソコンでなくても展示する。名称にクラブ名を入れた理由である。

会員からの寄贈などで集めた古いパソコンと周辺機器。長年使っていなかったものは中のほこりが発火する危険があり、念入りに清掃した

コンピューター関係の本・雑誌、ソフトを大量に収蔵した書棚。これらも会員が保存していて寄贈してくれたものが大半だ

かつて大型コンピューターで使われた磁気テープ。植木さんが1973年まで勤めていた電機メーカーで自ら作ったプログラムが入っている

柏崎マイコンクラブ博物館

往年の名機たち

KMC館蔵

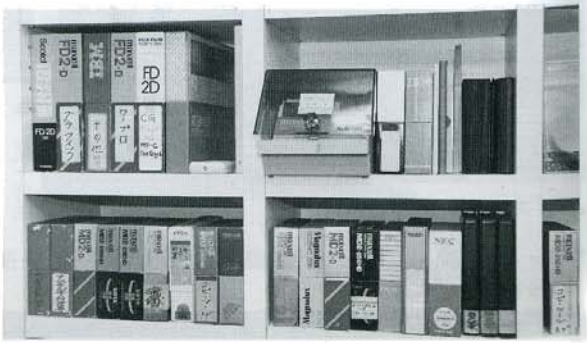
MZ－80C（シャープ） 1979年に発売された国内草創期のパソコン。プログラムが記録されたカセットテープを読み込んで使った。退会会員が持っているのをようやく見つけて展示できた

PC－9800シリーズ（日本電気）「キューハチ」と呼ばれ、1980年代から90年代にかけて国内の圧倒的主力機種だったパソコン。市内若葉町にあった旧新潟日本電気が、この機種の第二生産拠点だった

FM－NEW7（富士通） 人気機種だったFM－7のマイナーチェンジ・廉価版で、1984年発売。富士通のパソコンは、今はノートパソコンを含めて「FMV」というシリーズがおなじみ

M23（ソード）＝中央＝ 1981年発売。先進的なパソコンを生んだソードは85年、東芝に吸収合併。マイコンクラブの権田康夫さん(65)＝市内西山町礼拝＝はソード創業メンバーの一人だった

MS－DOSや初期のウィンドウズなど、今では「お宝」ともいえるソフトの数々



8㌢、5㌢のフロッピーディスクに収められたソフト。記憶媒体はどんどん新しいものに取って代わられ、近年は3.5㌢のフロッピーもあまり見ない